

えびの市立上江小中学校中部

※◎前年度比+0.3 ▲前年度比-0.3 ★生徒・保護者の信頼感、教師の自信感

評価基準: A(4)よくあてはまる B(3)ややあてはまる C(2)あまりあてはまらない D(1)あてはまらない N わからない ※教師・生徒・保護者の単純全体平均

目標	No.	評価項目	教師平均比較	生徒平均比較	保護者平均比較	全体平均比較	項目平均差	項目平均差
			本年/昨年	本年/昨年	本年/昨年	本年/昨年	生徒-教師	保護者-教師
学力の向上	1	先生達は、授業でわかりやすい授業づくりに努めている。★	3.1 / 3.3	3.6 / 3.9	3.4 / 3.3	3.4 / 3.5	0.5	0.3
	2	自分は、先生の話や発表する生徒の話をしっかり聞いている。★	3.2 / 3.2	3.5 / 3.5	3.1 / 3.2	3.3 / 3.3	0.3	-0.1
	3	先生達は、小学校などの以前に習った内容を確認しながら授業を進めている。★	3.2 / 3.4	3.7 / 3.6	/ / /	3.5 / 3.5	0.5	
	4	自分は、家庭学習の課題を期日までに取り組んでいる。★★	3.6 / 3.4	3.5 / 3.4	3.2 / 3.3	3.4 / 3.4	0.0	-0.3
	5	先生達は、課題に取り組んできたかを確認し、やり直しをさせている。★★	3.6 / 3.3	3.8 / 3.9	3.4 / 3.6	3.6 / 3.6	0.2	-0.1
	6	先生達は、一人一人の個性を生かしながら、進路指導の充実に努めている。★	3.1 / 3.3	3.5 / 3.7	3.3 / 3.4	3.3 / 3.4	0.4	0.2
	7	教育課程特例校による「英語表現」の授業実践が、外国語能力の向上につながっている。	令和元年度末の英語検定の合格率 1年14名(4級2名、5級10名) 2年16名(3級1名、4級13名、5級2名) 3年16名(準2級1名、3級4名、4級4名、5級5名)					
豊かな心の育成	7	自分は、元気なあいさつができています。★	3.4 / 3.3	3.6 / 3.4	3.4 / 3.3	3.5 / 3.3	0.1	-0.1
	8	自分は、家族・友達・先生方に正しい言葉遣いで話すことを心がけている。	3.1 / 3.3	3.3 / 3.4	3.0 / 3.0	3.1 / 3.2	0.2	-0.1
	9	先生達は、同じ基準で生徒指導に取り組んでいる。★	2.9 / 3.4 ▲	3.7 / 3.6	3.2 / 3.2	3.3 / 3.4	0.8	0.4
	10	学校は、生徒会が自発的・自治的に活動できるように実践活動の場を与えている。★	3.3 / 3.9 ▲	3.6 / 3.7	3.3 / 3.4	3.4 / 3.7	0.4	0.1
	11	自分は、普段からよく本を読む。	2.8 / 3.1 ▲	2.7 / 2.8	2.4 / 2.4	2.6 / 2.7	-0.1	-0.4
	12	自分は、生活の中で、自ら進んで安全な行動が取れるように心がけている。	3.1 / 2.8 ◎	3.2 / 3.5	3.0 / 2.9	3.1 / 3.1	0.1	-0.2
体力の向上	13	自分は、進んで部活動に取り組んでいる。	3.0 / 3.3	3.3 / 3.6	3.3 / 3.3	3.2 / 3.4	0.3	0.3
	14	自分は、正しい姿勢(立腰)で授業を受けている。	3.1 / 3.5 ▲	2.8 / 2.9	3.0 / 3.1	3.0 / 3.1	-0.3	-0.1
	15	自分は、食への関心があり、食事のマナーができています。★	3.0 / 3.0	3.5 / 3.5	3.0 / 3.0	3.2 / 3.2	0.5	0.0
地域に貢献する人材の育成	16	自分は、えびのに関心があり、えびののよさに気付いている。★	3.8 / 3.4 ◎	3.4 / 3.5	2.8 / 2.9	3.3 / 3.3	-0.4	-0.9
	17	先生達は、自分たちの学校での様子などを積極的に家庭に連絡している。	3.5 / 3.4	3.3 / 3.3	3.1 / 2.9	3.3 / 3.2	-0.2	-0.5
	18	学校は、情報発信を適切に行い、地域や家庭と連携して教育活動を行っている。	3.2 / 2.8 ◎	/ / /	3.2 / 3.2	3.2 / 3.0		0.0
特別支援教育	19	研修等を通して障がいの特性を理解し、個に応じた指導に当たっている。	3.1 / 3.3			3.1 / 3.3		
	20	将来、社会人として自立できるように、必要な支援を行っている。	3.1 / 3.3			3.1 / 3.3		

プラス評価として着目  
3.5以上 項目は0.3を越えるもの

マイナス評価として着目  
3.0未満 項目は0.4を下回るもの

⇒教師の見方・考え方のきびしさ

⇒今後の課題「読書習慣の形成」

⇒今後の課題「立腰習慣」

⇒食事マナーに対する見方の違い

⇒教師の見方の甘さ

⇒教師の見方の甘さ

## 令和元年度 上江小中学校(中学部)「学校評価」集計結果から見えるもの

※3.0未満の項目をピックアップ

※▲配慮すべき項目 ●積極的に対応すべき項目

### 【全体的に低い評価】

● 読書習慣の形成 ..... 2.6

### 【教師の低い評価】

▲ 同じ基準での生徒指導 ..... 2.9

● 読書習慣の形成 ..... 2.8

### 【生徒の低い評価】

● 読書習慣の形成 ..... 2.7

● 立腰習慣 ..... 2.8

### 【保護者の低い評価】

● 読書習慣の形成 ..... 2.4

● えびのへの関心・よさ ..... 2.8

### 【経年変化において昨年より下がっている項目】

- (教師) ● 同じ基準での生徒指導
- 生徒会(自発的・自治的活動実践活動の場)
- 読書習慣の形成
- 立腰習慣

※0.3をこえるずれをピックアップ

※○プラス評価のずれ ●マイナス評価のずれ

### 【保護者・生徒・教師の意識のずれ】

#### □生徒の評価は高いが教師は低い

○ わかりやすい授業づくり ..... +0.5

○ 既習事項を確認した授業 ..... +0.5

○ 個性を生かした進路指導 ..... +0.4

○ 同じ基準での生徒指導 ..... +0.8

○ 実践活動の場(生徒会活動など) ..... +0.4

○ 食への関心・食事のマナー ..... +0.5

※生徒の満足感はあるが教師からはあと少しの部分あり

#### □教師の評価は高いが生徒は低い

● えびのへの関心・よさ ..... -0.4

※全体的に高いが、教師が思っているほど生徒は関心ない

#### □保護者の評価は高いが教師は低い

○ 同じ基準での生徒指導 ..... +0.4

※経年変化で教師3.4→2.9

#### □教師の評価は高いが保護者は低い

● 読書習慣の形成 ..... -0.4

※教師が思っているほど家庭で読まない。経年変化も注意。

● えびのへの関心・よさ ..... -0.9

※教師が思っているほど保護者は実感がない

● 家庭への連絡体制 ..... -0.5

※全体的に高いが、教師と家庭との連携をさらに進める点

令和元年度 えびの市立上江小中学校 中学部「学校運営協議会評価書」			
【学校教育目標】 グローバルな視野をもち、主体的に活動するたくましい上江っ子の育成 ～ 主体性・自律心・向上心にあふれた心身共に健康な上江っ子 ～			
【めざす児童生徒像】 ○ 礼儀正しく、元気のある子 ○ 目標をもって、自ら学ぶ子 ○ 責任をもって、確実にやり遂げる子			
項目	重点目標と主な達成手段	具体的な取組	成果と課題(改善策等)
学力の向上	<p>(1) 時間の設定や指導方法の工夫等、組織的な体制づくりに努め、個に応じた指導の充実を図る。</p> <p>(2) 重点支援校指定等を生かし、管理職も積極的に関わることで、職員の授業改善を図る。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした望ましい学習習慣や家庭学習の定着を図る。</p> <p>(4) 教育課程特例校による「英語表現科」の授業実践を通して外国語教育の充実を図る。</p>	<p>○出張等を考慮し、その都度時間割を変更することで、自習が出ないようにしている。</p> <p>○朝の時間に3年生は5教科の指導、1・2年は読書に取り組んでいる。また、定期的に全学年で音読に取り組んでいる。</p> <p>○全職員が相互の研究授業を実施して先生方に授業を参観していただき、授業改善を図っている。</p> <p>○小中で系統性・継続性のある教育課程の実施・充実を図っている。 ～小中教員による乗り入れ授業～ ・中学部の理科担当が小学部5・6年の理科を担当 ・中学部の音楽担当が小学部の4～6年の音楽を担当 ・小学部の先生が中学部の家庭科を担当</p> <p>○小中合同の学習部会で足並みをそろえながら、各学年に応じて立腰教育の推進及び基本的な学習習慣の確立を図るため、学習用具、2分前行動、1分前着席、黙想等で共通実践を図っている。</p> <p>○「英語表現科」の学習を通して、英語の能力向上を図る。そして、社会が求める実践的な英語力の育成を進める。</p>	<p>○教務の時間割等の調整により、自習はない。ただ、本年度は休業日が多い当たり年に加え、改元と2回の大雨休校で、年間授業時数が厳しい⇒(授業時間の余裕→学力向上)。そのような厳しい状況の中で、個に応じた指導の充実のため、授業改善に取り組んでいる。</p> <p>●朝の読書や音読が、生徒の読書の習慣化につながっていない。保護者の認識もほぼ同じで、家庭での読書はさらに不十分。また、ドリル等が学力向上の特効薬になっていないのが現状。</p> <p>○主題研においてメンターチームによる学力向上の取組を行い、指導力向上の機会を積極的につくることのできた。<u>生徒からの信頼感がデータに見える。</u></p> <p>○小中併設校のメリットである小中教員による乗り入れ授業は順調に進めることのできた。今後は、さらに教材研究を進め、小中系統立てた授業の構築。</p> <p>●集会、授業での挨拶、2分前行動、黙想指導は良好で徹底している。しかし依然として家庭学習が定着していない生徒もややいるので、さらに個別指導を進めていく必要がある。</p> <p>○「英語表現科」での学習を通して生徒の英語に対する苦手を減らすことができた。ALTの活用も功を奏し、英検結果からも英語力の向上が見られた。</p>
豊かな心の育成	<p>(1) 読書活動の推進のための積極的な働きかけを図る。</p> <p>(2) 元気なあいさつを基本に、主体性のある児童会・生徒会の活動を促し、望ましい人間関係の醸成を図る。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした積極的な生徒指導に努める。</p>	<p>○朝は水曜日を除いて、読書の時間を設定し、さらに、月1回の割合で木の葉の会の方々に来ていただき、読み聞かせを実施している。また、月に2回程度、全職員による音読指導をしている。</p> <p>○生徒会活動の一環として、朝のあいさつ運動や昼休みの清掃ボランティアに生徒全員が参加するように進めている。今後も生徒たちに達成感等を味わわせながら、より主体的、積極的な取組を継続していきたい。</p> <p>○人間関係をうまく築けなかったり、維持できない生徒のために、人権教育や道徳教育の視点で教育活動に取り組んでいる。</p> <p>○小中合同運動会や白鳩祭などの学校行事を行うにあたり、生徒一人一人に役割を与えるようにしている。そのことで、小学生の手本となるように主体的に活動し、その責任を果たすとともに、達成感を味わわせるように指導を進めている。</p>	<p>●朝、読書の時間を設定して、読書を推進している。昼休み等や家での読書量は個人差がある。中学生による小学生への読み聞かせ、読書量表彰など、一層読書への関心や意欲を高めていく働きかけを進めたい。</p> <p>○朝のあいさつ運動は、年度後半になるにつれて取組が変わった。やや、時折マンネリ化の傾向があるので説諭によるタイミング指導も必要。→生徒会を中心とした活性化策を講じていく。卒業式、入学式に向けた一人一鉢栽培は順調に取り組んでいる。生徒の生徒会活動への満足感が高い。</p> <p>●ほとんど生徒は学年・男女関係なく、仲良く学校生活を送ることができた。ただ生徒の一部で、<u>友達関係をうまく築けない状況があった。</u> →さらに人権教育の視点に立った学級づくりを進めたい。</p> <p>○合同運動会や白鳩祭などの学校行事を中心に、生徒は小学生の手本になろうと主体的に活動し、その責任を果たした。達成感を味わうことができた。</p>
体力の向上	<p>(1) 小中一貫の特色を生かした体力向上プランの実施及び食育の推進を図る。</p> <p>(2) 立腰指導の徹底や部活動の推奨をとおして体力の向上を図る。</p>	<p>○部活動は顧問、外部指導者の熱心な指導と保護者後援会の連携で、充実した活動ができています。</p> <p>○小中合同の保体部会で足並みをそろえながら、体力テスト結果を踏まえて、強化すべきトレーニング等の共通理解を図っている。また、初めての小中合同での持久走記録会を通して、体力を向上させることの必要性や重要性を理解させ、自主的に意欲的な練習につなげている。</p> <p>○授業の始まりと終わりを中心に小中で共通した立腰指導を図っている。</p> <p>○給食での日常指導や年間2回の「弁当の日」の実施を通して、残さない、好き嫌いをしない、感謝して食べる等の食育指導を進めている。</p>	<p>○保護者や指導者の協力のもと、どの部も少ない人数の中、意欲的に活動できた。今年度から部活動指導員2名(新体操部、女子バレーボール部)の活用により部活動の競技力向上に取り組んでいる。</p> <p>○体力テストの結果を踏まえて、体育の授業で改善を図る取組や意識付けを行うことができた。</p> <p>●アンケートの結果からも、立腰に対して意識がマンネリ化している傾向が見える。→小中職員で再確認して、職員側の意識も高めていく。</p> <p>○給食の残食はほとんどない。小中合同での給食感謝会や栄養教諭を招聘しての食育の授業、弁当の日の設定等を通じて、栄養バランスや感謝の心を育成する、望ましい食育指導ができた。</p>
地域に貢献する人材の育成	<p>(1) 「えびの学」を中心に、体験活動を積極的に取り入れることで、地域に対する愛着や理解の深化を図る。</p> <p>(2) 積極的な地域・関係機関との連携や外部人材の活用により、地域に開かれた教育課程の実現を目指す。</p> <p>(3) 小中一貫の特色を生かした系統的なキャリア教育の充実を図る。</p>	<p>○「えびの学」の学習で、職場体験学習(2年)、手話教室(3年)、米作り体験(1年)、地域の方々との交流会(1年)、職場訪問(1年)、森林教室(全学年)等を実施し、地域の方々の協力をもらいながら、充実した活動を進めている。</p> <p>○上記の活動以外にも、避難訓練(火災、地震、不審者)や薬物乱用防止教室、情報モラル教室等においても、関係機関と連携し外部人材を活用している。</p> <p>○学校だよりの発行、HPの随時更新、学級通信の発行などの情報提供を行っている。また、保護者には安心安全メールで随時不審者情報や学校の教育活動を案内している。</p> <p>○各学年に応じて、自己理解を深めながら、主体的に進路選択ができる資質・能力を培うために、職場体験学習をはじめとするさまざまな体験学習の充実を図っている。</p>	<p>○本年度も、地域の方々、社会教育課の方々のご協力や応援をいただき地域教育活動を行うことができた。生徒自身にも、地域の方々への感謝の気持ちや貢献したいという意識が生まれている。</p> <p>●引渡し訓練については、いくつか課題が見られたので運動場を活用した引渡し訓練を行うよう次年度に向けて計画を進めている。</p> <p>○定期的な学校だよりの発行、随時ホームページの更新や安心安全メールでの連絡ができ、学校の取組や生徒の活動状況を知らせることができた。</p> <p>○学年の現状に応じて、様々な体験活動(1年:地域の方々との交流会、社会人の声を聞く会、2年:職場体験学習、先輩の話を聞く会、3年:高校説明会)を実施しながら、自己理解を深め、夢や希望をもって自己実現していく教育活動を推進した。</p>